

令和3年度千葉県立仁戸名特別支援学校「開かれた学校づくり委員会」
第3回会議（書面決議） 報告

【第1号議案】令和3年度学校評価について 【可決】

○今回いただいた以下の課題等を参考にして、引き続きより良い学校づくりに取り組む。

- ・アンケート結果の考察と、今後の活動指針のもと、改善に向けて、引き続きウィズコロナの対応を学校全体で取り組んでいく。
- ・職員と保護者の評価の違いや差については、「長期にわたり指導を受ける子と短期で転校していく子の評価は別であっても良いのではないか」「保護者についてもこれらのグループ別に分類すると評価や回答率の傾向がわかりやすいのではないか」等の御意見からアンケート方法、評価方法の検討を図る。

【報告1】いじめアンケートについて

○「殆どの児童生徒が学校生活を楽しいと感じている結果は素晴らしい」という御意見をはじめ、多くの御意見をいただいた。

引き続き、子供たちが、安心して学校生活を送ることができることを第一に、いじめに対して未然防止に努めていく。併せて、相談に乗りやすい雰囲気を引き続き作り出し、学校全体で児童生徒に対応する環境づくりを行う。

【報告2】防災等にかかる取組結果について

○「もっと知る機会があると安心できる」という御意見があるとおり、一層の防災意識の向上・対策に取り組み、児童生徒、保護者にもわかる学習方法、情報提供方法の工夫を図っていく。

千葉東病院、淑徳大学、がんセンター等と連携の継続・発展及び、新規連携の依頼と、その具体を改めて整理しつつ、取り組んでいく。

【その他】2020ロボットプログラミング選手権 全国大会 結果

○令和4年2月1日に標記の大会が行われた。本大会において、2チームが出場し、優勝、準優勝という結果となった。次年度は、大会を本校が取りまとめて実施する計画を進めている。

令和3年度学校評価について（集計結果及び分析と今後の取組）（案）

依頼日：令和3年12月1日（水） 回収日：令和3年12月16日（木）

対象者：本校在籍児童生徒
保護者
※一部の児童生徒は除く
職員

【配付数と回収数】

（数字）は昨年度の数
※未回収の理由については、連絡
困難等によるもの。

		配布数	回収数	回収率(%)
児童生徒	小	0(5)	0(5)	R3: 94.7% R2: 100% R1: 88.0%
	中	5(6)	4(6)	
	高	4(5)	4(5)	
	重複	0(0)	0(0)	
	訪問	10(0)	10(0)	
	合計	19(16)	18(16)	
保護者	小	0(5)	0(5)	R3: 71.4% R2: 80.5% R1: 43.4%
	中	5(6)	5(6)	
	高	4(5)	3(5)	
	重複	21(20)	14(14)	
	訪問	12(0)	8(0)	
	合計	42(36)	30(30)	
職員		61	61	100%

【分析】

観 点 1 肯定的評価80%未満の項目について

保護者

- ・防災訓練、交通安全等を通して、安全で安心した学校生活を送れるよう、防災・交通安全教育に取り組まれている。70%
- ・いじめ等に気を配り、児童生徒の人権や個性を尊重して指導されている。66%
- ・児童生徒・保護者が進路や将来を考えるような機会や情報が用意されている。67%

児童生徒

- ・勉強や病気などの悩みを相談しやすい。61%
- ・将来の夢や希望を持つことができる。72%
- ・交通安全や防災安全について勉強し、自分の身を守ることができる。61%
- ・自分のこと、友だちのことを大切にできる。78%
- ・視聴覚機器を使い、授業に興味や関心が持てるようになった。78%

観 点 2 「わからない」の割合が30%を超えていた項目について

保護者

- ・防災訓練、交通安全等を通して、安全で安心した学校生活を送れるよう、防災・交通安全教育に取り組まれている。30%

児童生徒

- ・勉強や病気などの悩みを相談しやすい。33%
- ・交通安全や防災安全について勉強し、自分の身を守ることができる。39%

【全体の考察（観点）と今後の取組】

訪問学級については、12月のアンケート調査時に在籍していた児童生徒・保護者に実施したため、入院時期によっては、入院したばかりで、本校のことを知らず「わからない」と回答するのは当然と考える。

保護者からの肯定的な評価が70%以下の項目

1 防災訓練、交通安全等をとおして安全で安心した学校生活を送れるよう防災・交通安全教育に取り組まれているという項目について

年間を通して、防災訓練を4回（地震、火災、Jアラート、ワンポイント）、訓練前後のDVD視聴等視聴覚機器を使つての学習等を実施した。また、訓練の様子や災害伝言ダイヤルの周知などを学校だより、学校メール（マチコミ）、HP等を使って情報発信に努めたところである。
→防災通信などの保護者向けプリント、動画等を活用したHPなど保護者への周知方法の工夫、引き渡し訓練など保護者も参加する訓練の実施など保護者も実感する内容での周知を図る。また、転入時に説明できるような防災だよりや災害時リーフレットを作成し、理解啓発を図っていく。

2 いじめ等に気を配り、児童生徒の人権や個性を尊重して指導されているという項目について

教育相談週間を実施したり、目安箱を置いたりしているが活用していない状況である。
→教育相談週間の周知方法の工夫、「人権」という文言をわかりやすくする、HPの活用を通して、学校の組織的な取り組みの周知を図る。

3 児童生徒が進路を考えるような機会や情報が用意されているという項目について

→入学後、進学後からの継続した進路指導、様々な職種の外部講師、卒業生等による児童・生徒、保護者向け研修を実施する。
保護者等への進路に関するアンケート調査、学校だよりやHPを活用しての取り組みの周知を図る。

保護者から「わからない」という回答の割合が30%以上の項目

4 防災訓練、交通安全等をとおして安全で安心した学校生活を送れるよう防災・交通安全教育に取り組まれているという項目について

本校の特徴として、入院時のタイミングによって訓練を実施していないこともある。転入時に、本校では、災害時の対応としてどのようなことを行っているか、病院、病棟等とどのような連携を図っているかを説明できるようなリーフレットを作成して、配付するなどの工夫が必要
→防災通信などの保護者向けプリント、動画等を活用したHPなど保護者への周知方法の工夫、引き渡し訓練など保護者も参加する訓練の実施など保護者も実感する内容での周知を図る。病棟にいて学校での取り組みが届きにくいと考えられる。「わからない」という項目設定の工夫

児童生徒から「わからない」という回答の割合が40%の項目

5 勉強や病気などの悩みを相談しやすいという項目について

→チームで児童生徒に寄り添う意識をもちながらかわっていく。
教育相談週間、なじみやすいネーミングなど周知方法の工夫を図る。

6 防災安全や交通安全について勉強し、自分の身を守ることができるという項目について

病棟に入院中でベッドから離れることが難しい児童生徒に対する学習、訓練等に関しては、教科指導の中で概要を学習しているが、不足しているところである。
→タブレット、プリント等を活用し、机上シミュレーション等に取り組む。また、病棟生については、〇〇の指導後にアンケートをとるなどタイミングを考慮する。実際に体験していない内容については、選択項目の工夫を図り、どのような学習をしたかを記述するようにする。

【報告】 令和3年度いじめアンケートについて

【目的】

いじめ防止基本方針の中に6月、1月にアンケートを実施し、外部委員への報告とある。6月分については、11月の開かれた当委員会内で報告したところである。1月のアンケートについては、「学校生活アンケート」（本調査は、県教育委員会の依頼により、県下全ての小中学校、高等学校、義務教育学校及び特別支援学校の児童生徒及び市立高等学校を除く市町村立及び県立学校の全職員対象の「セクシャルハラスメント及び体罰に関する実態調査」の一環として行うものであり、内容にいじめ、セクハラ、体罰等が含まれている）として、実施した。

【配付数と回収数】

実施日：令和4年1月 7日（金）

対象者：本校在籍児童生徒

	配付数	回収数	回収率(%)
児童 生徒	小	14	14
	中	12	12
	高	13	11
			94.9% (R2 90.9%)

【主な設問項目と回答】

1 小学部

- (1) 毎日の学校生活が楽しい・・・・・・・・・・楽しい11名 どちらでもない3名
 (2) 先生のこと、いやだなと思うことがある・・・・・・・・・・0名
 (3) 悩み事相談員の先生がいることを知っている・・・・・・・・・・1名

内容及び対応について

(1) について

- ・「楽しい」を選択した児童からは、「授業が楽しい」というコメントがあった。また、「どちらでもない」の項目は、児童の読み取りが困難であったというコメントがあった。
- ・慣れない入院生活・学習環境の中でも楽しさを見いだしながら学びを進める児童の姿が垣間見えたが、引き続き、学校生活に楽しさを感じられるよう分かりやすい授業内容や丁寧な言葉かけ等に務める。

(3) について

- ・悩み事相談員の存在を知る児童が1割に満たなかった。より児童に分かりやすい啓発となるよう掲示物等を含め工夫を進めたい。また、引き続き、入院加療による不安感等により添いつつ、個に応じた丁寧な対応を続ける。

2 中学部 高等部

- (1) 先生から「セクハラ」を受けたり、見たり、聞いたりした・・・0名
- (2) 先生から「セクハラ」以外の言動を受けて解決しておらず相談したい・・・0名
- (3) 「体罰」と思われる行為を先生から受けた・・・0名
- (4) 「体罰」と思われる行為を先生から受けているのを見た・・・0名
- (5) 先生とのメールやSNS等の私的なやりとり、自家用車等の同乗・・・0名
- (6) 学校生活について、先生、親、スクールカウンセラー等に相談したい・・・1名

内容及び対応について

(6) について

- ・学校全体で、悩み事相談員の周知も併せ、組織的に教育相談に対応していく。

【考察】

学習や、病気など普段の生活から話しやすい雰囲気づくりに努め、関係機関等も連携を図りながら、話ができる環境を整える。

教育相談週間を設け、児童生徒にわかりやすい名称や担当職員の紹介を含め、啓発を図る。

目安箱の活用や保健室の活用、相談週間、相談場所などの工夫を図り、気軽に話ができる場所を設定して、実施する。

【報告】防災等に係る取組結果について ～関係機関との連携～

当委員会第2回の会議内にて、病院、病棟との連携を災害発生フローチャート(資料2)で計画したところである。今年度は、以下のような取組を行うことができた。フローチャートに基づき、発災時の対応として、千葉東病院のとの連絡体制の確認、千葉東病院から淑徳大学への二次的避難の確認をすることができた。

【千葉東病院 31病棟、32病棟、療育訓練室】

- ・被災時の二次避難場所として、千葉東病院の療育訓練室と連携を図る旨確認した。
- ・令和3年12月3日(金)に学校、31病棟、32病棟、療育訓練室との合同防災訓練を実施した。実際に訓練を行って、想定していなかったことが多く課題となった。

課題としては、以下のとおりである。

- ①トランシーバー、病院PHSなど連絡方法の拡充
- ②学校、病院の避難経路上の整備
- ③特別支援学校教員と児童生徒を含めた療育訓練室への避難は全員受入れ困難。

今後、3病棟、31病棟、32病棟、療育訓練室と合同訓練を実施し、被災時の対応をより円滑にしていく。

【淑徳大学】

- ・被災時における避難場所の確保等について、淑徳大学との連携・協力依頼等の検討を進め、「災害時における一時的避難の要請についての覚書」を取り交わした。

今後に向けて、実際の避難を想定し、以下のように取り組んでいきたい。

- ①シミュレーション
- ②マニュアル作り
- ③合同訓練

【本校】

- ・今後に向けて、保護者への引き渡し訓練を計画し、学校、病院、病棟等、引き渡し場所を保護者へ周知、理解を図る。
- ・訪問指導へ行っている各病院との連携を図り、発災時の児童生徒の安否確認、情報共有方法の確立を図る。